

[省令第8条の4の5(1,000トン以上排出事業者用)]

様式第2号の8(第8条の4の5関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和5年6月29日

(宛先) 長野市長 荻原 健司殿

提出者

住所 長野市末広町1355-5  
ウエストプラザ長野8F

氏名 積水ハウス株式会社 長野支店

鬼頭 佳宏

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 026-228-4151

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	積水ハウス株式会社 長野支店
事業場の所在地	長野市末広町1355-5 ウエストプラザ長野8F
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	06 総合工事業
② 事業の規模	50億円
③ 従業員数	61人
④ 産業廃棄物の一連の処理工程	別紙(産業廃棄物の一連の処理の工程)の通り

## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)  
別紙管理体制図の通り

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 4年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス)	ガラス・コンクリート・陶磁器く	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡)	金属くず	紙くず	木くず
排出量	746.90t	80.82t	36.98t	6.13t	27.84t	390.14t	
②計画	産業廃棄物の種類	繊維くず					
	排出量	1.78t					
(これまでに実施した取組) ・新築施工現場では27分別を行いQRラベルによる廃棄物量の実測を行っている ・梱包材の簡素化 ・解体工事では建設リサイクル法の特定建設資材以外もリサイクルに取り組んでいる							
①現状	【目標】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス)	ガラス・コンクリート・陶磁器く	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡)	金属くず	紙くず	木くず
排出量	672.21t	72.74t	33.28t	5.52t	25.06t	351.13t	
②計画	産業廃棄物の種類	繊維くず					
	排出量	1.60t					
(今後実施する予定の取組) ・梱包材の簡素化、余剰材の削減 ・プレカット品の推進（石膏ボード等） ・工法の改善（複合化率のアップ） ・解体工事では建設リサイクル法の特定建設資材以外もリサイクルに取り組む							

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 新築工事については、現場にて27分別を実施。解体工事では建設リサイクル法の特定建設資材以外もリサイクルに取り組んでいる
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状維持

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項							
①現状	【前年度（令和 4年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス)	ガラス・コンクリート・陶磁器く	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡)	金属くず	紙くず	木くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	3.78t	43.89t	20.42t	5.68t	21.63t	19.72t
	産業廃棄物の種類	繊維くず					
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0.03t					
(これまでに実施した取組) ・新築廃棄物は、現地にて27分別を実施し資源循環センターに搬入 ・資源循環センターでは、広域認定制度(第279号)に基づき運用 ・資源循環センターでは、持ち込まれた廃棄物を最大80品目に分別 ・資源循環センターでは、マテリアルリサイクル率90%を達成							
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス)	ガラス・コンクリート・陶磁器く	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡)	金属くず	紙くず	木くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	3.40t	39.51t	18.38t	5.11t	19.47t	17.75t
	産業廃棄物の種類	繊維くず					
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0.03t					
(今後実施する予定の取組) ・現状を維持して継続する							
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項							
①現状	【前年度（令和 4年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス)	ガラス・コンクリート・陶磁器く	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡)	金属くず	紙くず	木くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量						
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	繊維くず					
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量						
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量						
(これまでに実施した取組)							
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス)	ガラス・コンクリート・陶磁器く	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡)	金属くず	紙くず	木くず
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量						
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	繊維くず					
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量						
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量						
(今後実施する予定の取組)							

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項							
①現状	【前年度（令和 4年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス	ガラス・コンクリート・陶磁器く	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡	金属くず	紙くず	木くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	繊維くず					
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量						
(これまでに実施した取組)							
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス	ガラス・コンクリート・陶磁器く	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡	金属くず	紙くず	木くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	繊維くず					
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量						
(今後実施する予定の取組)							
産業廃棄物の処理の委託に関する事項							
①現状	【前年度（令和 4年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス	ガラス・コンクリート・陶磁器く	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡	金属くず	紙くず	木くず
	全処理委託量	743.12t	36.93t	16.56t	0.45t	6.21t	370.42t
	優良認定処理業者への委託量	98.27t	13.83t	6.93t	0.45t		46.75t
	再生利用業者への委託量	453.92t	13.83t	0.11t	0.45t		
	認定熱回収業者への委託量						
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量						
	産業廃棄物の種類	繊維くず					
	全処理委託量	1.75t					
	優良認定処理業者への委託量	0.36t					
	再生利用業者への委託量						
	認定熱回収業者への委託量						
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量						
	(これまでに実施した取組)						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当社規定のマニュアルに従い業者選定をし、契約を締結している</li> <li>・契約を締結している中間最終処理業者の施設確認を半年に1回実施している</li> </ul>						

【目標】						
産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリガラ、廃アスファルト、レンガ)	ガラス・コンクリート・陶磁器くず(石膏ボード含)	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡スチロール含)	金属くず	紙くず	木くず
全処理委託量	668.81t	33.23t	14.90t	0.41t	5.59t	333.38t
優良認定処理業者への処理委託量	88.44t	12.45t	6.24t	0.41t		42.08t
再生利用業者への処理委託量	408.54t	12.45t	0.10t	0.41t		
認定熱回収業者への処理委託量						
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者へ処理委託量						
産業廃棄物の種類	繊維くず					
全処理委託量	1.57t					
優良認定処理業者への処理委託量	0.32t					
再生利用業者への処理委託量						
認定熱回収業者への処理委託量						
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者へ処理委託量						
(今後実施する予定の取組)						

②計画

※事務処理欄

(第6面)

備 考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が12以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。  
また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

## 産業廃棄物処理計画書（産業廃棄物の実績及び計画の量）

処 理 事 項		産 業 廃 棄 物 の 種 類 (実績値・計画値)											合 計			
		がれき類 (コンクリ がら、廃 アスファ ルト)	ガラス・ コンク リート・ 陶磁器	廃プラス チック(廃 タイヤ、 発泡スチ ロール)	金属くず	紙くず	木くず	繊維くず								
排出抑制に関する事項	前年度排出量(実績)	746.90t	80.82t	36.98t	6.13t	27.84t	390.14t	1.78t							1,290.59t	
	本年度排出量(計画)	672.21t	72.74t	33.28t	5.52t	25.06t	351.13t	1.60t							1,161.54t	
自ら行う(行った) 再生利用に関する事項	前年度実績	3.78t	43.89t	20.42t	5.68t	21.63t	19.72t	0.03t							115.15t	
	本年度計画(目標)	3.40t	39.51t	18.38t	5.11t	19.47t	17.75t	0.03t							103.65t	
自ら行う (行った) 中間処理 に関する 事項	自ら行う (行った) 熱回収の量	前年度実績														
		本年度計画(目標)														
	自ら中間処理 により減量 する(した)量	前年度実績														
		本年度計画(目標)														
自ら行う(行った)埋立 処分又は海洋投入処分 に関する事項	前年度実績															
	本年度計画(目標)															
処 理 の 委 託 に 関 す る 事 項	全処理委託量	前年度実績	743.12t	36.93t	16.56t	0.45t	6.21t	370.42t	1.75t						1,175.44t	
		本年度計画(目標)	668.81t	33.23t	14.90t	0.41t	5.59t	333.38t	1.57t						1,057.89t	
	優良認定処理業者 への処理委託量	前年度実績	98.27t	13.83t	6.93t	0.45t		46.75t	0.36t						166.59t	
		本年度計画(目標)	88.44t	12.45t	6.24t	0.41t		42.08t	0.32t						149.94t	
	再生利用業者 への処理委託量	前年度実績	453.92t	13.83t	0.11t	0.45t									468.31t	
		本年度計画(目標)	408.54t	12.45t	0.10t	0.41t									421.50t	
	認定熱回収業者 への処理委託量	前年度実績														
		本年度計画(目標)														
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	前年度実績														
		本年度計画(目標)														

## 【記載方法】

- ・ 各産業廃棄物の種類ごとに該当の箇所の上段に前年度の実績(現状)を、下段に本年度の目標(計画)の産業廃棄物の量を記載してください。
- ・ 「自ら行う再生利用に関する事項」の欄は、自ら直接再生利用した量と中間処理した後再生利用した量を記載してください。
- ・ 「自ら行う埋立処分又は海洋投入処分に関する事項」は、自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量と自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量を記載してください。
- ・ 「処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量及びそれぞれの内訳を記載してください。